



©2013 kobe city No.R1-008

# 西区サポセン通信

Vol.4

## 「地域の訪問診療(医・歯・薬)の取り組みを学ぶ」開催

日時: 令和元年11月7日(木)17:30~19:30 場所: プレンティホール 参加者: 99人

内容: 講演「地域の訪問診療(医・歯・薬)の取り組みを学ぶ」・質疑応答



座長: 石原健造医師



中本博士医師・長谷川博司医師・藤田邦夫歯科医師・中神祐介医師・松岡一典管理薬剤師・福井亮介医師・宮軒將医師

昨年が多職種勉強会では、西区の8人の訪問診療医による「訪問診療の実際と連携の課題」を開催しました。その時のアンケートに、医師の講演に加えて“歯科医師・薬剤師”からの講演要望があり今回の企画となりました。

初めに西区医師会会長より開会の挨拶、3人の副会長より座長・講師・総評、6人の講師により研修会が行われ、介護支援専門員、訪問介護員、あんしんすこやかセンター職員、リハビリ専門職、看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW・PSWなどの在宅医療に関わる専門職の方々の参加を得て開催されました。

### ●講演会では

講師の先生方より在宅療養の場である住み慣れた家での訪問診療の実際の取り組みに対する思い・様子、死亡診断についてのご講演をいただきました。訪問診療を行う上で、患者・家族関係者と医療・介護関係者との円滑なコミュニケーションが大切。ケースの症例によっては、課題がいろいろとあり、実際どのように多職種との連携を実施しているのかを学びました。また精神科領域での往診時、ケースによっては事前に行政や訪問看護師等との多職種連携の上、対応している事を学びました。

#### 「地域の訪問診療の取り組みを学ぶ」

座長: 石原内科・リハビリテーション科	院長	石原 健造氏
講師: 中本クリニック	院長	中本 博士氏
講師: 長谷川医院	院長	長谷川博司氏
講師: 藤田歯科クリニック	院長	藤田 邦夫氏
講師: 中神クリニック	院長	中神 祐介氏
講師: 池上薬局	管理薬剤師	松岡 一典氏
講師: 福井医院	院長	福井 亮介氏
講師: 新生病院	院長	宮軒 將氏

### ●「質疑応答」の一部をご紹介します

- ・在宅での看取り件数は増えているか? その場合家族への支援が必要か?  
⇒看取り件数は印象として増えている。元気なうちから自分で積極的に人生の最終段階を考えるACPの考え方が必要。家族や遠い親戚も含めて一緒に考えていく必要がある。
- ・内服の一包化で内服中止や追加になった時の対処方法について  
⇒内服の中止や別包の指示は文書ではなく口頭指示で可能。依頼時間によってはすぐに対応できないこともあるが、追加の費用もかからないので遠慮なく薬局に連絡していただければ対応する。

### ●アンケートより“学べたこと”は、

「具体的な症例等を紹介してもらい分かりやすく、理解できた」「判断や支援に活かしていきたい」「歯科や精神科の訪問診療について非常に参考になりました」「医師、歯科医師、薬剤師の先生方にどんなことをお願いできるのかがわかった」「死亡診断書の事、知らなかったので教えて頂いて良かった」「相談の方法等具体的にイメージができました」「先生方の顔が見え、どのようなお考えで診察されているのかわかりました」等。また、「同様の研修会を継続してほしい」の意見もありました。

## ■ 『研修会』『市民啓発』報告

### 多職種によるグループワークを活用した研修

#### 第7回 ワールド・カフェ「病院との連携について」

日 時: 令和元年9月12日(木)14:00～15:45

場 所: 西公会堂 参加者: 91人

内 容: 14テーブル席: 替え2回・グループ発表



#### ●多職種関係者で意見を交わしました。

グループ発表では、「一般病院は急性期、慢性期等に分かれていることは知っていたが、精神科にも急性期、慢性期があることを知り、目からうろこであった」「行動変容として、諦めないで頑張る!!」「行動変容として、断らない!逃げない!」等々。アンケートより『ワールド・カフェ』で学べたことは、「連携は遠慮せずに積極的に行うべき」「病院に限らず他職種の困りごとがよくわかった」「病院・地域お互いに困っていることが共有できたこと」等、参加者より意見が寄せられました。

#### 第6回 多職種連携が必要な事例検討による研修 ～事例を通して話合える関係づくり～

##### 「独居生活を送っていたが認知症の症状進行に伴い在宅支援が難渋した事例」



日 時: 令和元年10月17日(木) 14:00～16:00

場 所: リバティホール 参加者: 59人

講師・事例提供: 神戸市リハ職種地域支援協議会 理学療法士

内 容: ミニレクチャー「地域におけるリハビリ専門職の役割とその活用」



事例検討会では、10グループに分かれ“認知症状の把握の仕方”等の課題についてグループワーク

#### ●事例を通して「多職種で利用者の病状把握の仕方、多職種と連携すること」を学ぶ

事例発表では、「各専門職のそれぞれの視点からの意見を情報共有整理」「多職種との情報共有が大切で状況の変化に応じて連携支援を行う」と具体的な提案が出されました。アンケートよりミニレクチャー・事例から学べたことは、「理学療法士の役割、気付き・報告・連携の大切さが良く分かった」「地域での連携が実際にどのように行われているのか知る事ができた」等、“リハの役割”“新たな気付き”を学べたようです。

## 市民啓発

### 令和元年度第6回市民啓発「在宅医療ってなに？」

日 時: 令和元年11月16日(土)14:00～15:30 参加者: 30人

場 所: コープ桜が丘集会室 内 容: 講義・質疑応答

座 長: 早川内科クリニック 院 長: 早川 雅弘氏

講 師: つねみ医院 院 長: 常深聡一郎氏

講 師: おひさま訪問看護ステーション 管理者: 稗田 洋子氏



押部あんしんすこやかセンター圏域開催

#### ●市民啓発では、参加者の皆様に「在宅医療」について理解を深める機会となりました

参加者より、「9年前主人をガンで亡くしたのですが、このシステムがあれば病院とかホスピスではなく在宅医療を考えたと思います」「話には聞いていましたが、具体的なお話でよく理解できた」等の意見をいただきました。西区医療介護サポートセンターとしては、「在宅医療」については、まだまだ市民の方々に周知活動が必要だと感じました。これからも「在宅医療ってなに？」を広く普及啓発活動を開催していくには、どのように実施していくか検討しながら“市民啓発”を継続していきます。



## ■ 西区で活動している多職種紹介 《リハビリテーション専門職》

「医療介護連携の中で生活を支えるリハビリテーションを提供するために」

神戸市リハ職種地域支援協議会 西区担当 理学療法士 安尾 仁志 氏



神戸市リハ職種地域支援協議会 安尾 仁志氏

平素より医療・介護現場におきまして皆様には大変お世話になっております。私たちリハビリテーション専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)は、これまで各県士会と圏域単位の組織しかありませんでしたが、昨今の地域包括ケアシステムの構築に向けた各市町単位での地域支援事業に対応するため、平成29年7月より3職種が合同で“神戸市リハ職種地域支援協議会”を設立し、各区単位でリハ専門職のネットワークの構築及び多職種、多機関との連携に努めているところです。



その関係により、この西区医療介護サポートセンターの会議・研修会等にもお声を掛けていただくこととなり、西区内の医療・介護の現状や各機関の活動を知ることができ、関係者の方々との“顔の見える関係”が広がっていることに大変ありがたく感じております。

私たちリハ専門職が働くフィールドは、急性期医療から介護保険領域と幅広く、最近では介護予防の現場でも活動を行っております。その中でも、在宅生活におけるリハビリテーションの役割としては、医療機関における心身機能の回復に重点を置いたものから、国際生活機能分類 (ICF) (図1)の考え方をベースに、活動、参加に重点を置いた生活機能全般の質の向上に向けた多角的なアプローチを実施しています。

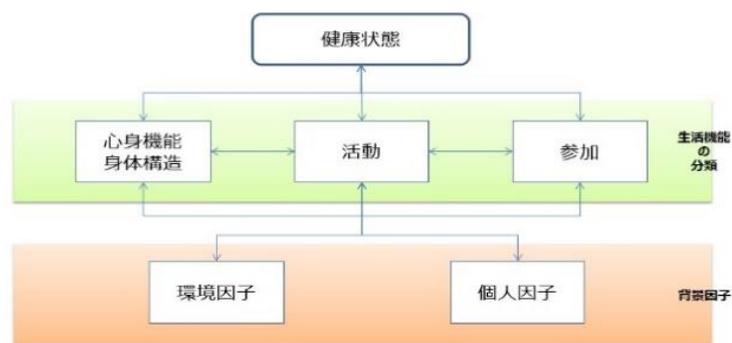
“その人らしい”生活を実現するために、身体機能やADL練習だけでなく、適切な福祉用具の導入や住環境整備、家族や支援者への介助方法の提案など様々な角度から、持てる能力を最大限活かし、自立したその方が望む生活に可能な限り実現するためのリハビリテーションを行うよう心掛けています。

今後更なる高齢者の増加と働き手の減少を考えますと、これからの生活期でのリハビリテーションの在り方としては、ゴール設定をより具体的に定め、直接的なリハビリテーションの提供から、如何に家族、他職種、地域につないでいくかということが重要になってくると考えます。

そのため、生活機能全般の初期のアセスメントやピンポイントのADL動作、外出能力の評価、手段の検討など、短期間での訪問リハビリテーションの要望に対して的確に対応していけるように質を高めていく必要があります。また、反対に進行性疾患や認知症、ターミナルケアの方の在宅支援の中で、最期まで安心、安

楽な“その人らしい”生活を支えるリハビリテーションの役割についてもしっかりとアピールをしていきたいと考えております。とはいうものの、リハ専門職の平均年齢は30歳代前半と若く、医療機関、施設、介護サービス事業所等様々な領域で働いているため、まずは西区内でも同職種間での連携を強めて底上げに努めていくとともに、在宅医療介護に関する関係機関、関係職種の皆様との連携もしっかりと行っていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

図1：国際生活機能分類 (ICF)



出典：文科省ホームページ ICFについて

([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/032/siryu/06091306/002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/032/siryu/06091306/002.htm))

## ■ これからの研修会予定

### 多職種のグループワークを活用した研修 第8回『ワールド・カフェ』

「相談先がわからない」「日常生活で気をつけることは何?」「内服の服用のタイミングがまちまち」等、日頃困っている事を皆さんと話しましょう。

日 時：令和元年12月12日(木) 14:00~15:30

場 所：兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
管理棟3F研修室

テーマ：「神経難病対応について」



## 第9回 医療・介護関係者の研修

『(仮)神経難病とリハビリの実際を学ぶ』～在宅での援助方法について～  
病気を理解し難病と付き合いながら、地域で安心して生活することを目指し、講演会を開催します。

日 時：令和2年2月13日(木) 14:00~16:00

場 所：兵庫県立総合リハビリテーションセンター管理棟3F研修室

内 容：講演会・質疑応答

講 師：兵庫県立リハビリテーション中央病院

脳神経内科部長 奥田 志保 氏



クリオ訪問看護・リハビリステーション

理学療法士 今川 敏希 氏

演 題：在宅療養における歯科医師の役割と多職種連携

講 師：兵庫県歯科医師会地域保健担当理事

養父市大屋歯科保健センター 砂治 國隆 氏

申込方法：直接会場へお越しください。

関心のある方は、どうぞご参加ください。

## ■ 西区歯科医師会からのご案内

### 『多職種連携講習会』

日 時：令和2年2月22日(土) 17:30~19:30

場 所：地域医療ホール

主 催：西区歯科医師会



## ■ このようなご相談が西区医療介護サポートセンターにありました



©2013 kobe city No.R1-008

### Q1:介護保険利用を拒否する80歳 高齢者独居の対応について相談

(診療所医師より問い合わせ)

- ・高齢者独居であれば、介護保険の利用がなくても居住地のあんしんすこやかセンターが把握されている。本人の了解のもと、居住地のあんしんすこやかセンターに昨年度の状況を伝えてはどうか。

### Q2:短期入所生活介護(ショートステイ) 利用中の訪問診療は可能か?

(介護支援専門員より問い合わせ)

- ・在宅報酬算定マニュアルより、ショートステイ利用者などにおける初・再診料、在宅報酬の算定可否一覧提示。入所前30日以内に自宅へ訪問を実施、指定の管理料を算定していない場合は不可であることを伝える。

### Q3:「若年者の在宅ターミナルケア 支援事業」で対応可能な訪問介護事 業所は?

(地域医療連携室より問い合わせ)

- ・神戸市保健所調整課疾病対策係へ訪問介護事業所届け出について確認⇒『届け出必要なく、受け入れ可能な事業所での対応を。請求他不明点は直接事業所より問い合わせ下さい』自宅付近訪問介護事業所へ問い合わせ事業説明、受け入れ可能事業所紹介。

※関係者の皆様からのご相談を受け付けております。お気軽にお電話ください。

## ■ 編集後記

西区医療・介護地域資源マップを今年度中にお届け予定となっております。サポートセンターでは地域の医療・介護資源の把握に努めると共に地域の多職種の繋がりが広がる“橋渡し”の支援を行える様に情報の提供と各種研修会を開催しております。皆様からの情報提供やアドバイスも大歓迎です。お気軽にサポートセンターにお問い合わせください。令和2年も良い年でありますように♡(溝端・内田)